

知的障害特別支援学級の 指導内容・方法の充実事業 成果報告

【事業の概要】

都内公立小・中学校に設置されている知的障害特別支援学級では、各教科を知的障害特別支援学校の各教科に替えて教育課程を編成している学級があります。

こうした学級では、在籍する知的障害のある児童・生徒の望ましい社会参加と自立を目指し、日常生活や社会生活に生きて働く知識及び技能、習慣や学びに向かう力を身に付けられるように、教科別の指導の充実を図るほか、小・中学校が必要に応じて設けている「各教科等を合わせた指導」の充実に取り組んでいます。

本事業は、知的障害特別支援学級において各教科等を合わせた指導を行う際の、各教科等の目標及び内容を明確にして指導計画をたてるポイントや、各教科等を合わせた指導における効果的な指導方法を講じられる場面について研究を行いました。

知的障害特別支援学級の指導内容・方法の充実事業

本事業の内容及び成果は次の4つの項目で説明します。
興味のある項目、知りたい項目からでも御覧いただけます。

特別支援
学級の
教育課程

指導計画
作成の
ポイント

各教科等
を合わせた
指導

指導実践
事例

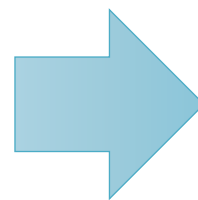
特別支援学級の教育課程



特別支援学級の教育課程は、小学校又は中学校の教育課程に関する法令上の規定が適用されます。

特別支援学級で学ぶ児童・生徒は、
通常の学級における学習では、
十分効果を上げることが困難です。

また、
知的障害のある児童・生徒の
学習上の特性に、「学習によって
得た知識や技能が断片的になり
やすく、実際の生活の場面の中で
生かすことが難しい」ことが
あります。



障害のある
児童・生徒の
特性や実態を
踏まえた
教育課程に
編成が必要

各教科等を合わせた指導とは

学校教育施行規則には、

各教科等を合わせた指導（学校教育法施行規則第130条第2項抜粋）

知的障害者である児童・生徒又は複数の種類の障害を併せ有する児童・生徒を教育する場合において、各教科、道徳、外国語活動、特別活動及び自立活動の全部又は一部について、合わせて授業を行うことができる。



知的障害のある児童・生徒の学習上の特性を踏まえ、児童・生徒の知的障害の状態、生活年齢、学習状況や経験等に応じて、各教科等を合わせて具体的に指導内容を設定することも有効です。

知的障害のある児童・生徒に効果的な指導の形態である「各教科等を合わせた指導」を充実させることが必要です

各教科等を合わせた指導の悩み



特別支援学級
を初めて担任
する教員の声

「各教科等を合わせた指導」を通して、
児童・生徒が、基となる各教科等の資質・能力を
身に付けることができているか自信がない。

各教科等を合わせることで、知的障害のある
児童の主体的な学びを実現させる効果的な
指導が実践できているか不安です。



特別支援学級
の担任経験の
ある教員の声



本事業では、各教科等を合わせた指導の形態の一つである
「作業学習」をテーマにして、指導計画の作成及び指導の
ポイントを明確にしていきます。

【参考】各教科等を合わせた指導の主な指導の形態

「日常生活の指導」、「遊びの指導」、「生活単元学習」、「作業学習」、
「社会性の学習」

各教科等を合わせた指導「作業学習」

特別支援学校学習指導要領には、



【知的障害のある児童・生徒の教育的対応の基本】(3)

職業教育を重視し、将来の職業生活に必要な基礎的な知識や技能、態度及び人間性等が育つよう指導する。

特別支援学校学習指導要領解説各教科等編（小学部・中学部）（平成30年3月）



【各教科等を合わせた指導の特徴と留意点】エ 作業学習



作業学習は、作業活動を中心にしながら、児童生徒の働く意欲を培い、将来の職業生活や社会自立に必要な事柄を総合的に学習するためのものである。

特別支援学校学習指導要領解説各教科等編（小学部・中学部）（平成30年3月）

中学校段階における作業学習の指導は、
教科「職業・家庭」の目標及び内容を
中心に取り扱うことがポイントになります。

指導計画作成のポイント（年間指導計画）

「作業学習」の年間指導計画は、次の(1)(2)の内容を確認して作成することで、生徒が喜びや完成の成就感が味わったり、相互の役割等を意識しながら協働したりできる計画になります。

(1) 学習指導要領の確認

①指導目標・内容の選定

特別支援学校学習指導要領解説各教科等編（小学部・中学部）の目標・内容一覧から、「作業学習」で取り扱うべき目標及び内容を検討しましょう。

②各教科等を合わせた指導の目標・内容の検証

各教科等の目標及び内容を基に「作業学習」の目標をたてるとともに、各教科で育成する資質・能力を明確にしましょう。

(2) 環境資源等の確認

①地域性に立脚した作業種の選定

社会変化やニーズに対応した活動や作業製品の利用価値が高い活動を選定しましょう。

②高等部への一貫性の確認

通学区域の特別支援学校高等部で設定している作業種や、指導目標・内容との一貫性を確認し、学びの連続性を充実させましょう。

指導計画作成のポイント（単元指導計画）

【事例】「作業学習」 単元名「資料の封入作業」

本単元では、学校から配布する資料を特別支援学級の生徒が協力して封入する活動を設定しました。単元の目標を設定するに当たり、特別支援学校学習指導要領解説各教科等編（小学部・中学部）の目標一覧から、本単元で取り扱う指導目標を確認しましょう。一覧から目標に基づいて、作業学習の単元の目標をたてることで、合わせた指導においても各教科で育成する資質・能力が明確になります。

【目標一覧】

○職業分野・段階の目標Ⅰ段階イ

将来の職業生活に必要な事柄について触れ、課題や解決策に気付き、実践し、学習したことを伝えるなど、課題を解決する力の基礎を養う。

○社会・段階の目標Ⅰ段階イ

社会的事象について、自分の生活や地域社会と関連付けて具体的に考えたことを表現する基礎的な力を養う。

○国語・段階の目標Ⅰ段階イ

順序立てて考える力や感じたり想像したりする力を養い、日常生活や社会生活における人との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えをもつことができるようにする。

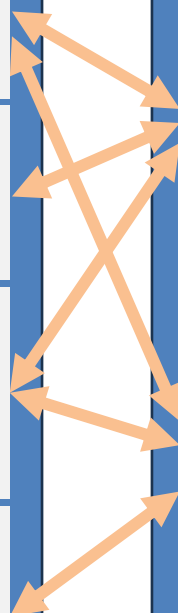
○数学・段階の目標Ⅰ段階A数と計算ウ

数量に進んで関わり、数学的に表現・処理するとともに、数学で学んだことのよさに気付き、そのことを生活や学習に活用しようとする態度を養う。

【単元の目標】

○相手に分かりやすく説明し、役割分担を話し合う。

○効率よく作業を進める方法を考え、実践する。



指導計画作成のポイント（単元の指導内容）

【事例】「作業学習」 単元名「資料の封入作業」

次に特別支援学校学習指導要領解説各教科等編（小学部・中学部）の内容一覧から、資料の封入作業で取り扱う作業と関連のある内容を確認しましょう。一覧から単元の指導内容を決定することで、生徒の発達段階に応じた指導内容を設定することができます。

【内容一覧】

○職業Ⅰ段階A「職業生活」ア(イ)

意欲や見通しをもって取り組み、自分の役割について気付くこと。

○社会Ⅰ段階ア「社会参加ときまり」(ア)㊦

学級や学校の中で、自分の意見を述べたり相手の意見を聞いたりするなど、集団生活の中での役割を果たすための知識や技能を身に付けること。

○国語Ⅰ段階A「聞くこと・話すこと」ウ

見聞きしたことや経験したこと、自分の意見などについて、内容の大体が伝わるように伝える順序等を考えること。

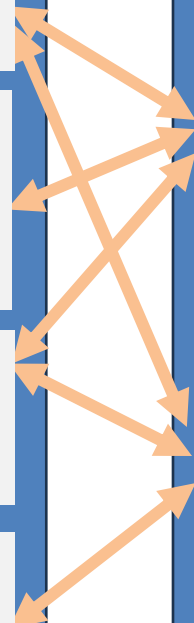
○数学A「数と計算」ア(イ)㊦

数のまとまりに着目し、考察する範囲を広げながら数の大きさの比べ方や数え方を考え、日常生活で生かすこと。

【単元の指導内容】

○クラスメイトと作業の役割分担を確認する。

○協力して資料の枚数を数え、丁寧に、効率よく作業を進める。



作業学習の指導実践事例①

作業製品への感想を受けるなどして、達成感を得る場面を設定した事例

(ポイント)

- ・地域行事の景品を、生徒自身が考え、意図的、計画的に準備すること。

実践事例：单元名「地域行事への参加」

【本時の指導目標】

- ・地域の行事に参加する小学生向けの景品の内容や景品を製作するための役割分担を考える。

【指導内容・方法】

- ・生徒が話し合った役割分担に沿って作業を進め、責任感を育む。
- ・生徒同士で相談しながら作業を進める。
- ・参加者から直接感想を得られるように、製作した景品は、お祭りで生徒自身が配布する。

作業学習の指導実践事例②

働く意欲が高まる作業内容や自分の能力・適性を発揮する

環境を設定した事例

(ポイント)

- ・産業現場等を参考にした作業環境の場を設定すること
- ・生徒にとって必然性のある作業内容にすること

実践事例：単元名「清掃活動」

【指導目標】

- ・清掃技術が身に付くようにする。
- ・生徒が互いに助言し合い、生徒が自己の能力や成長の変容等に気付けるようにする。

【指導内容・方法】

- ・清掃に使用する用具の使い方を確認する。
- ・清掃場所を確認する。
- ・姿勢に気を付けて、清掃道具を正しく扱うことができるようにする。
- ・タブレット端末を使用し、作業状況を撮影した動画を見ながら、改善点を話し合う。

作業学習の指導実践事例③

自分と他者との関係を考えたり、役割を果たせたか 振り返ったりする場面を設定した事例

(ポイント)

- ・クラスメイトと作業環境や役割分担等を話し合うこと

実践事例：单元名「研究発表会の配布資料封入作業」

【本時の指導目標】

- ・チームワークの大切さや役割分担の重要性についての考えをまとめ、相手に分かりやすく説明しようとする。
- ・大量の資料を効率的に数える方法を考え、作業に必要な時間や人員を予測しようとする。

【指導内容・方法】

- ・学校で開催する研究発表会の資料を封入する作業活動。
- ・作業を行いながら、必要な場の設定や円滑に作業するための改善案を、生徒同士で話し合う。
- ・作業時間を計測し、作業完了までの時間の見通しをもつ。
- ・作業製品の「検品」をする。

令和6年度 知的障害特別支援学級の 指導内容・方法の充実検討委員会

氏 名	所 属 職	
長江 清和	国立特別支援教育総合研究所発達障害教育推進センター 上席総括研究員兼センター長	専門委員
北山 博通	フェリス女学院大学文学部教職課程 非常勤講師	専門委員
金澤 誠	目黒区立大鳥中学校 校長	委員
生野 まゆみ	調布市立神代中学校 校長	委員
土方 恒徳	調布市立神代中学校 指導教諭	委員
尾形 幸一	目黒区立大鳥中学校 主任教諭	委員
峯村 幸信	目黒区教育委員会事務局教育支援課 指導主事	委員
原田 勝	調布市教育委員会教育部指導室 副主幹	委員

教育庁では次の者が担当した

中村 大介	指導部 特別支援教育指導課長	委員長
西岡 陽子	指導部 主任指導主事	副委員長
松浦 隆史	指導部特別支援教育指導課 統括指導主事	事務局
魚谷 有里	指導部特別支援教育指導課 指導主事	事務局